

事例番号 21

(1) タイトル

筋ジス（デュシェンヌ型／ウールリッヒ型）の高等部男子生徒の音楽バンド等でドアチャイムを改造した打楽器装置を使い、足先でジェリービーンスイッチを押してバスドラムを叩く事例

(2) 事例の対象となる児童生徒について

筋ジストロフィー（デュシェンヌ型／ウールリッヒ型）の高等部男子生徒で、スネアドラムをバチを手で持って叩くことはできるが、バスドラムは足の力が弱く叩くことができない。バンド演奏に興味関心があり、どうしても自分の力でドラム演奏をしたいという希望がある。

(3) 使用する機器（支援機器）名称と特長

① 支援機器の名称

- a. 「ドアチャイムを改造した打楽器装置」
- b. 「ジェリービーンスイッチ」
- c. 「どっちもクリップ（ヤザワ）」

② 特長

- a. さまざまなスイッチ操作により、楽器などを叩くことができる。
- b. 多少乱暴に扱っても壊れない。小さいので、生徒の身体状況に合わせて使える。
- c. 装置を固定したいところに自由につけることができる。

(4) 使用した機器を選定した理由

自分の力でバンド演奏がしたいという希望から、どのような装置が考えられるかを音楽の担当者が「マジカルトイボックス」という研究会で編集している、「障がいのある子の力を生かすスイッチ製作とおもちゃの改造入門」（明治図書）に掲載されていたドアチャイムを改造した打楽器装置にヒントを得て、バスドラムをたたけるのではないかということから使用するようになった。ジェリービーンスイッチの選定は、足先が動くことを利用してスイッチを押すことを考えた。

(5) 選定のプロセス

生徒の希望があり、それを実現する形で音楽担当の教諭が考えて選定した。

(6) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

個別の指導計画では、自己効力感の向上を目標として掲げ、病気の特徴で喪失体験の連続である生徒に、自分でやり遂げたという達成感を多く味わうことで目標を達成することを記載している。機器の導入についての記載はない。

(7) 指導の内容

とくに記載なし

(8) 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

バスドラムの音を出す方法はいろいろあり、たとえばシンセサイザーから音を出す方法などもある。しかし、車いすに乗車したままドラムキットを前にして生の演奏ができることはことのほか大きい様子であった。少しの足や手の動きがあれば大きなバスドラムを叩くことができることで、自分でもできるという自信にとつながっていると考えられる。

(9) まとめと今後の課題

ドアチャイムを改造するもので一般的に使用できるかといえば、少し技術が必要となってくる。音を鳴らす方法はシンセサイザーでもよいが、楽器を直接鳴らしたいという希望は多く、それに応えられるような技術を日常的に使うことができたらよいと考える。また、学校では使っても卒業後にその装置があるとは限らず、継続的に使用してQOLを高めていければよいと考える。

(10) 文献（引用文献・参考文献）

畠山卓朗監修 マジカルトイボックス編著（2007）.障がいのある子の力を生かすスイッチ製作とおもちゃの改造入門.明治図書.



写真 1

バスドラムに装置をつけた様子



写真 2

足にジェリービーンスイッチを置き、バスドラムを装置でたたく様子



写真 3

バスドラムに装置を使ったドラム演奏

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－４９例の活用事例を中心に学ぶ導入，個別の指導計画，そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。